

ティーチング・ポートフォリオ

日本国際学園大学 経営情報学部 ビジネスデザイン学科
松橋 有希子

教育の責任

航空業界は安全・正確・快適を追求すると同時に、様々な分野において私たちの生活に影響を与えています。その社会的役割は、旅客や貨物運送に留まらず、災害時の復興、緊急輸送、地域振興など「社会インフラ」の役割を担うと同時に、日本の経済や環境問題にも力を発揮しています。このような航空業界を志す学生に、業界の基礎知識を単なる知識の習得だけではなく、世の中をより良くするために必須であることを授業の中から自分で感じ取り、航空ビジネスの可能性を見出せる人材の育成を目指します。そして、多くの学生を「未来の航空人」として社会に送り出す責任を果たしていきます。

科目名	対象 学年	受講 人数※	授業 形態	必修 選択	科目区分 (カリキュラムにおける位置づけ)
航空ビジネス	2-4	30	講義	選択	選択科目
エアライン入門	1-4	30	講義	選択	モデル入門科目
エアラインキャリア実践演習	2-4	30	講義	選択	選択科目

教育の理念

①実務理解 × 論理的思考—「業界を知る力」と「考える力」のバランスを育む

現場で求められる基本的な業務（運航、空港支援、予約システム、機材配備など）については、実務に即した構造理解と用語の習得を重視しています。同時に、それらを表面的に記憶するのではなく、業界の課題に対して自ら問いを立て、考え抜く力の育成を重視しています。

② グローバル視野 × ローカル適応—「国際基準と地域性を両立できる視野の広さ」を養う

航空業界は ICAO、IATA 等の国際標準に従って運営されており、学生にも世界共通の安全文化や運用基準への理解が求められます。一方で、国内空港や地方自治体との連携、観光施策など地域事情に応じた適応力も不可欠であり、学生には両方の視点を持つ教育を施しています。

③ 航空サービス・経営・安全・マーケティングの総合教育—「多面的に業界を理解し、総合的に判断できる力」を身につける

航空ビジネスはサービス産業でありながら、技術・安全・収益性・国際対応など、複合的な視点が必要です。授業ではこれらの要素を縦割りで教えるのではなく、横断的・統合的に扱い、業界の実際の意思決定に近い形で考察する機会を設けています。

教育の方法

① ケーススタディ学習

業界の実際の経営判断、安全判断、サービス施策などを題材に、学生に問いを立てさせ、自ら答えを導く力を養う。

② チーム・プロジェクト学習

課題解決型のグループ学習を通じて、協働力・課題発見力・意思決定力を高める

③ 統合型シミュレーション・演習

サービス、経営、安全、マーケティングといった複数分野を統合した、実務的判断経験の場を提供する

④ グローバル・ローカル比較分析

国際基準と地域特性を並列に学ばせ、視野の広さと適応力のバランスを養う

⑤ 学修の振り返りと自己評価の導入

学生が自分の成長を自覚し、次の学習行動を考える力を育てる

教育の成果 および 今後の目標

詳細は「授業改善報告書」を参照。

参考資料

授業にて使用の自作テキスト、Power Point（部外秘）